

岩手縣のスマレ

菊地政雄

I 緒言

筆者は今から20年程前に「東山産スマレ科植物」⁽⁴⁾と題して当時知られたる東磐井郡産のスマレを23種程記載したことがあつた。今それを見ると観察にも同定にも粗漏があり、沢山の誤りを犯し特に汗顔のものである。其の後仕事の都合で氣仙郡に移り、更に台湾、大阪と轉々し、昭和18年6月大太平洋戦争の最中に岩手に引揚げ再び郷土植物に親しむ身とはなつた。終戦の直前戦災に逢い多年蒐集した標本資料の大半を失つたのであるが、幸にもスマレ属は自宅に置いたので焼失を免かれた。その間に於て青森の村井三郎氏、水沢の岩淵初郎氏、釜石の笹村祥二氏、遠野の小水内長太郎氏、又故人となられた鳥羽源藏氏、福田裕氏等の努力により我岩手のフローラも次第に明かにされ世に紹介せられたのであるが、スマレ類の探究も大いに進み、新品奇種の検出も続出し今や再検討の時期が到来したものと考えられる。茲に筆者は既往の蒐集品に最近数年間の採集品を加え、更に当大学農学部及び学藝学部の所蔵標本、学生猪苗代君の蒐集標本を検し、文献に照して本縣産スマレ属諸種に再検討を施し、その結果を茲に報告することにする。所蔵標本の観察、文献の閲覽に対し格別の便宜を与えられた本学農学部教授永井政次博士並に材料の蒐集整理に労を備しまなかつた猪苗代正憲君に対し厚く御礼申上げる。

II 岩手縣スマレ研究小史

茲に研究小史として述べんとするものは、文献解題とでもすべきもので大正年代以後のものに限定することにする。それ以前のは岩手山、早池峯、五葉山、須川岳等の植物採集目録又は採集紀行の形式で植物学雑誌や山岳誌等に発表せられたものがあるが、既に古く歴史的回顧の資料以外には格別の参考にはならないと思うので、今はそれに触れないことにした。以下年代順に述べる。)内の数字は文献番號である。

1. 大正14年(1925) 和川忠次郎氏¹⁾

和川氏は江刺郡伊手村の人、鳥羽氏と共に岩手縣植物研究史上特筆さるべき大先輩で菌莖類、蘚苔類、粘菌類の探究に盡された功績は大きい。氏は江刺郡産のスマレとして次のものを記録された。イヌスマレ、エゾスマレ、オホバキスマレ、アフヒスマレ、ケマルバスマレ、ニホイタチツボスマレ、スマレ、アカネスマレ、ミヤマスマレ、タチツボスマレ、スマレサイシン、ツボスマレ、アギスマレ、ハイツボスマレ、シハイスミレ、ヒカゲスマレ(以上16種)

2, 昭和5年(1930) 村井三郎氏²⁾

村井氏の岩手植物志は岩手フローラの基礎的著作で本学農学部所蔵の標本を基礎としている。本著中に収録せられたスマレ属は次の如し。

エゾノタチツボスマレ, キバナノコマノツメ, ウスバスマレ, オホバキスマレ, タカネスマレ, エゾスマレ, タチツボスマレ, サクラスマレ, オホバタチツボスマレ, コスマレ, スミレ, イブキスマレ, フヂスマレ, アフヒスマレ, ニホイタチツボスマレ, ケマルバスマレ, アカネスマレ, チカスマレ, アケボノスマレ, ミヤマスマレ, フィリミヤマスマレ, ヒナスマレ, スミレサイシン, アギスマレ, ツボスマレ, ヒカゲスマレ (以上26種)

3, 昭和6年(1931) 菊地政雄氏⁴⁾

筆者の若年時代のもので文献として価値のあるものではないが参考までに記載した種類をあげて見ると,

スマレ, ヨロバナスマレ, ノヂスマレ, ツボスマレ, ハイツボスマレ, タチツボスマレ, ナガバタチツボスマレ?, ニホイタチツボスマレ, オホタチツボスマレ, ナガハシスマレ, アカネスマレ, サクラスマレ, ケマルバスマレ, シハイスミレ, ヒカゲスマレ, アフヒスマレ, イブキスマレ, フヂスマレ, アケボノスマレ, ヒナスマレ, スミレサイシン, コミヤマスマレ, エゾスマレ。(以上23種)

4, 昭和7年(1932) 瀬川宗吉氏⁵⁾

瀬川氏は八幡平附近の植物を調査されスマレ属3種を検出された。

キバナノコマノツメ, ウスバスマレ, オホバキスマレ

5, 昭和7年(1932) 本田正次氏³⁾

東京大学の本田博士は故鳥羽氏が盛岡附近より見出したアギスマレの一型を新変種と認め、ハタカリアギスマレ (*Viola semilunaris* var. *divaricata* Honda) として植物学雑誌で発表された。

6, 昭和7年(1932) 福田裕氏⁶⁾

福田氏は紫波郡赤沢村の人、岩手師範を卒えて縣下初等教育に従事する傍ら、多年岩手縣植物研究に没頭されフローラ究明のため絶大なる功績をたてられたが、惜しいかな昭和14年肺炎のため永眠された。氏の個人雑誌と見るべき「こけもも」を通じて新研究を発表されたが、スマレについては当時縣下未記録種として次の5種を報告されている。

ケタチツボスマレ (縣内), アラゲキスマレ (岩手山, 朝日畚山), オトメスマレ (盛岡), ナ

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

ガラスミレ (區界), オホタチツボスマレ (盛岡)。

- 7, 昭和8年 (1933) 岩淵初郎氏⁸⁾

胆沢郡南都田村字萩之窪南方の山地に於てフモトスマレの群落を発見報告せられた。元來フモトスマレは中部以南の暖地のもので我が東北からは最初の記録となつた。

- 8, 昭和9年 (1934) 加藤運彌氏¹⁴⁾

加藤氏は盛岡農專在学中特にスマレに興味をもたれて研究をつまれ、岩手縣未記録種3種を検出發表せられた。シロスマレ (盛岡市旧黄金馬場), ケナシスマレ (岩崎村), アラゲンジスマレ (浅岸村)

- 9, 昭和9年 (1934) 松田孫治氏¹⁵⁾

松田氏は秋田縣の人、八幡平附近の植物を調査せられて発表されたが、八幡平産のスマレとして次のものを記録せられた。アラゲキスマレ, ウスバスマレ, ミヤマスマレ, フィリミヤマスマレ, ツボスマレ, スマレ1種。

- 10, 昭和9年 (1934) 岩淵初郎氏 (東北博物界1號)

フモトスマレが水沢町大鐘の松林中に産することを報ず。

- 11, 昭和9年 (1934) 岩淵初郎氏^{9) 10)}

焼石岳植物研究の權威であられる岩淵氏は本論文に於て焼石岳産スマレを次の4種記載された。ツボスマレ, オホバキスマレ, ウスバスマレ, キバナノコマノツメ。

- 12, 昭和9年 (1934) 鈴木長治氏¹⁹⁾

鈴木氏は須川岳産スマレとして次の5種を記載した。オホバキスマレ, コスマレ, ツボスマレ, ウスバスマレ, ミヤマスマレ。

- 13, 昭和10年 (1935) 福田裕氏⁷⁾

岩手の高山帯に分布するスマレの種類及び分布を報じられた。

キバナノコマノツメ (早池峯, 焼石岳, 駒ヶ岳, 岩手山, 八幡平)

ウスバスマレ (早池峯, 焼石岳, 駒ヶ岳, 岩手山, 八幡平, 五葉山)

オホバキスマレ (須川岳, 焼石岳, 和賀岳, 駒ヶ岳, 岩手山, 八幡平)

タカネスマレ (駒ヶ岳, 岩手山)

- 14, 昭和10年 (1935) 村井三郎氏³⁾

- 15, 昭和10年 (1935) 柏木吾市氏¹⁶⁾

村井, 柏木両氏は相前後して、岩手基準帯植物目録及び三陸植物志を青森営林局より出版

せられた。両著は岩手産の種類については殆ど同じ資料に基くと思われるので両書に記載されたスマレをまとめてあげて見ると、

キバナノコマノツメ、ウスバスマレ、オホバキスマレ、アラゲキスマレ、タカネスマレ、エゾスマレ、タチツボスマレ、ケタチツボスマレ、オトメスマレ、サクラスマレ、コスミレ、オホタチツボスマレ、ケオホタチツボスマレ、スマレ、ケナシスマレ、エゾタチツボスマレ、イブキスマレ、フヂスマレ、アフヒスマレ、ニホヒタチツボスマレ、ケマルバスマレ、エゾシロバナスマレ、アカネスマレ、アケボノスマレ、ナガハシスマレ、ミヤマスマレ、フイリミヤマスマレ、アギスマレ、ハタカリアギスマレ、ヒナスミレ、スマレサイシン、ゲンヂスマレ、ツボスマレ、ノヂスマレ、ヒカゲスマレ (以上は村井氏目録の分)、マルバケスマレ、オホバタチツボスマレ、ヲカスマレ、ハイツボスマレ、シハイスミレ (以上の5種は柏木氏の植物志のみに記載のもの、産地の明示なきものもあるも参考までに記す)

16, 昭和12年 (1937) 岩淵初郎氏¹¹⁾

次の3種の未記録種を報告された。ホツバスマレ (黒石村)、ミヤマツボスマレ (焼石岳)、アイヌタチツボスマレ (焼石岳)。

17, 昭和12年 (1937) 笹村祥二氏¹⁷⁾

笹村氏はコサクラスマレが遠野に産することを報ず。

18, 昭和12年 (1937) 富樫浩吾, 雪浦参之助両氏²⁰⁾

両氏は築川放牧地の植物調査をせられ立派な報告書を出されたが同地方から次のスマレを検出されている。マルバケスマレ、タチツボスマレ、ケタチツボスマレ、サクラスマレ、コサクラスマレ、コスミレ、スマレ、エゾタチツボスマレ、アフヒスマレ、アカネスマレ、アケボノスマレ、スマレサイシン、ツボスマレ。

19, 昭和12年 (1930) 岩淵初郎氏¹²⁾

胆沢郡植物目録 (其6) 中に記載されたスマレ属は次の如し。

キバナノコマノツメ、オホバキスマレ、タカネスマレ、ミヤマツボスマレ、タチツボスマレ、ケタチツボスマレ、サクラスマレ、オホタチツボスマレ、スマレ、ケナシスマレ、エゾノタチツボスマレ、フヂスマレ、ニホイタチツボスマレ、ケシロスマレ、シロバナスマレ、フモトスマレ、ミヤマスマレ、アギスマレ、アイヌタチツボスマレ、ヒナスミレ、スマレサイシン、ツボスマレ (以上22種)。

20, 昭和14年 (1939) 小水内長太郎氏¹⁸⁾

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

小水内氏は上閉伊郡栗橋地方の植物を調査せられて発表され、スマレは次の如きものを記載された。エゾタチツボスミレ、オホバキスミレ、シロバナタチツボスミレ、サクラスミレ、オホバタチツボスミレ、スマレ、アフヒスミレ、ケマルバスミレ、アカネスミレ、ミヤマスミレ、スマレサイシン、ツボスミレ。

21, 昭和14年(1939) 中井猛之進氏³⁷⁾

東京大学の中井博士は日本本土の中部及び北部高山帯に分布する「オホバキスミレ」の仲間に色々の異品を混ざることには注意するところがあつたが、遂に從來ダイセンキスミレとなした1変種を特立の種と認め新種として発表せられた。同時にミヤマキスミレを本新種の変種に移された。而して兩種共我岩手山にも産することを述べて居るので我が岩手のスマレ「フローラ」に2種を加えられることになつた。即ち

ダイセンキスミレ *Viola flaviflora* Nakai (中原氏採集 Mt. Iwate. 1903)

ミヤマキスミレ Var. *acuminata* Nakai (同上)

22, 昭和18年(1943) 岩淵初郎氏¹³⁾

焼石岳植物の増補目録ともせられる著作でスマレ属も大いに増している。

キバナノコマノツメ、ウスバスミレ、オホバキスミレ、タカネスミレ(経塚山附近)、ミヤマツボスミレ、タチツボスミレ、ケタチツボスミレ、スマレサイシン、ミヤマスミレ、アカネスミレ、オホタチツボスミレ、ツボスミレ、ケスミレ、アフヒスミレ。

23, 昭和23年(1948) 藤沢統悦氏²¹⁾

藤沢氏は内地留学生として盛岡農専永井教授の下で主として岩手縣南地方のスマレ属を調査され、その報文は未発表のまま同教室に保存されている。詳しい解剖図が作られてあるので今後の研究に対し好い資料となるであろう。種類は主として一関附近のもので次の16種となつている。アフヒスミレ、アケボノスミレ、エゾスミレ、マキノスミレ、スマレ、オホタチツボスミレ、サクラスミレ、スマレの1種(多分アカネスミレの夏型であろう。)ヒカゲスミレ、スマレサイシン、ナガハシスミレ、シロバナスミレ、アギスミレ、ツボスミレ、タチツボスミレ、ミヤマスミレ。

24, 昭和24年(1949) 藤沢統悦氏²²⁾

一関蘭梅山のスマレを紹介された。スマレ、シロバナスミレ、マキノスミレ、タチツボスミレ、ナガハシスミレ、ツボスミレ、エゾスミレ、アケボノスミレ、サクラスミレ、ニオイタチツボスミレ、アカネスミレ。

25, 昭和24年(1949) 上井公夫, 藤卷惇³²⁾氏

上井, 藤卷の両君は釜石高校学生であるが, 小水内, 笹村両氏の指導の下で極めて熱心に釜石地方の植物を調査しつゝある。その第1報として植物採集目録を出された。その中でスマレは次の如く記録せられた。キバナノコマノツメ, ウスバスマレ, オホバキスマレ, マルバケスマレ, エゾスマレ, タチツボスマレ, シロバナタチツボスマレ, ケタチツボスマレ, サクラスマレ, ケスマレ, ケナシスマレ, イヌスマレ, アフヒスマレ, ケマルバスマレ, アカネスマレ, アケボノスマレ, ミヤマスマレ, ツボスマレ (以上18種)。

以上で最近迄に筆者の目にとまつた文献によつて本縣スマレ属探究の経過を述べ盡したので次で再検討に移る。

III 岩手縣産スマレ属の再検討

茲では紙面の都合上再検討の結果, 除外すべきもの, 新に加うべきもの, 疑惑なるもの等について述べる。

1, 岩手縣産の種類として記載せられたものの中, 除外するを適當と認むるもの。

1) フヂスマレ *V. nikkoensis* NAKAI

本種は筆者によりて⁴⁾東磐井郡に産することが報ぜられ, 岩淵氏によりて¹²⁾水沢より報告され, 村井氏によりて²⁾浅岸, ³⁾葛根田に, 柏木氏によりて¹⁶⁾門馬に産することが記載されて居るが, 筆者のものはマキノスマレの誤認であり, 岩淵氏のもの¹²⁾はフモトスマレの夏型であつたことが同氏自身の確認するところとなつた。村井氏, 柏木氏¹⁶⁾のものは不明なるも恐らくヒナスミレ又はミヤマスマレの斑葉型の1品ならんと推定される。故に筆者は後日の研究によりて本種が本縣に産することの確証を得るまで本縣目録より除外するを適當と認める。

2) アイヌタチツボスマレ *V. sachalinensis* Boisseu

本種は岩淵氏によりて¹¹⁾焼石岳より報告されて居るが, 同氏の談によると本報告の基礎になつた標本は花のない不完全品で小泉博士の同定であつたとの事である。タチツボスマレとの區別のはつきりしないものであるから, 同氏の同意を得て完全品の発見されるまで本縣目録より除外することにする。

3) オホバタチツボスマレ *V. kamtschadalorum* Beck. et Hult.

本種は村井氏によりて²⁾外山より報告され, 柏木氏によりて¹⁶⁾引用記載され, 又小水内氏に

よりて栗橋地方より報告されたが村井氏の報告の原標本は現に農学部標本室に所蔵されて居る。(外山, 1906, June 24. K. SAWADA) 其の後該標本に対し村井氏自身が再檢の上「オホタチツボスマレ」の花のすぎた春型として可なるべし、但し毛多き憾ありと手記して居られる。若い実のある地上部のみの標本で托葉及び葉形はツボスマレ型にして更に大形、葉の表裏特に裏面脈上に稍あらし毛を散生するもので今以つて解決のつかないものである。小水内氏のもは多分オホタチツボスマレの誤認であろうと思われる。

4) ナカスマレ *V. phalacrocarpoides* Makino

本種は村井氏によりて釜石産が記載され、柏木氏によりて引用記載されたが原標本は現在農学部標本中に見出される。(釜石烏ヶ沢産 April 20. 1909, 荒木田長藏採集) 後に村井氏再檢の上コスミレと訂正手記されて居るので本種は本縣目錄より除外される。

5) ナガバタチツボスマレ? *V. ovato-oblonga* Makino?

筆者によりて藤沢、室根山より報告されたがニホイタチツボスマレの夏型の誤認であつたので除外する。

6) ハイツボスマレ● *V. verecunda* A. Gray form. *radicans* Makino

筆者によりて蓬萊山より、柏木氏によりて盛岡より、又和川氏によりて江刺郡より報告されているが、筆者のものはヒメアギスマレと認むべきものであり、又柏木氏、和川氏の分は不明である。然しながら別に筆者の採集品中にも又農学部標本中にもそれと認むべき型が沢山あるが、ツボスマレの一生態型であるとの説が有力であるので一先ず本縣目錄より除外することにした。

7) コミヤスマレ *V. Maximowicziana* Makino

筆者によりて記載された本種はミヤスマレの誤認であつたので除外する。

8) ホツバスマレ *V. obtusosagitta* Koidzumi

本種は岩淵氏によりて黒石村より報告されたが本種は現在マキノスマレ (*Viola Makinoi* Boiss.) と同一物であると思われるので産地名だけ生かし種名は除外することにする。

9) シハイスミレ *V. violacea* Makino

本種は筆者によりて東磐井郡より和川氏によりて江刺郡より、又柏木氏によりて三陸地

方(産地を明示せず)¹⁶⁾より報告され、又農学部標本中にも村井氏によりて同定された花巻温泉産、江刺郡福岡村産の標品がある。筆者のものはコスミレの誤認であつたし、村井氏同定のもは今日の知見ではマキノスマレと見るのが適當であり、和川氏、柏木氏のもは不明なるも恐らくマキノスマレならんと推定される。故に本種は一切本縣目錄より除外することにした。

10) アナゲンジスマレ *V. variegata* var. *ircutiana* REGEL

本種は加藤氏によりて初め¹⁴⁾て浅岸産として報告されたのであるが不思議なことには同じ資料によると思われる村井氏や柏木氏は³⁾ ¹⁶⁾姫神山 (U. Kato) として居り種名もゲンジスマレ (*V. variegata* var. *nipponica* Makino) としている。事情を知らぬものにとつては本縣に近縁の2種が実在するようにもとれるのである。当時採集に同行した佐野氏(本学学芸学部教官)の語るによれば浅岸方面で採つたことは確かであると言う。然し筆者等はその後姫神山麓で自生を確めたので産地は浅岸、姫神の両方とも生きる。次に種名の問題であるが *V. variegata* var. *ircutiana* REGEL (アナゲンジスマレ) と言うのは葉裏の綠色のものに命ぜられたものであるから本縣産のものに当てることは不適當と思われる。故に本種は村井氏の選定した *V. variegata* var. *nipponica* Makino ゲンジスマレが生きてアナゲンジスマレが除外される。尙花色は牧野博士の原記載によると花瓣堇色 (Petals violaceous) となつて居るが筆者の採集品は姫神山麓のものも陸奥馬仙狹産のものも共に帯紅白色であつた。この点後日の研究に俟つことにする。

2. 新たに岩手縣フローラに加うべきスマレ

1) ヒトツバエズスマレ *V. eizanensis* var. *simplicifolia* Makino (仮同定)

筆者は盛岡市浅岸の山地からヒトツバエズスマレ類似の1品を得た。自宅にも移し植えて観察中であるが、未だに解決がつかない。何れ研究を盡して詳報したいと思うが今仮に前記の種と同定し岩手フローラに加えて置くことにする。(浅岸, May 11, 1947)

2) コシロスマレ *V. mandshurica* var. *albescens* Nakai

スマレの白花品である。本種は加藤氏によりて¹⁴⁾シロスマレ (*V. Patrinit*) として報告されたものであるが(盛岡黄金馬場産 May 24, 1931) 現に農学部標本室に保存され村井氏之を再檢し上記の種であると手記されている。筆者も其の正当であると認めるので本縣フローラに加えることにした。

3) マルバタチツボスマレ *V. obtuso-grypoceras* Makino

本種はニホイタチツボスマレとタチツボスマレの中間の形態を示すもので宮古及び一関地方より採集せる標本に本種と同定されべきものを見出した。(宮古: May 22, 1949. 一関: May 1, 1949)

4) ヒメアギスマレ *V. verecunda* var. *excisa* Maximowicz

筆者がさきにハイツボスマレと誤り、又農学部標本では單にアギスマレとしてあるものであるが、山形の結城氏に²⁶⁾倣いこれをヒメアギスマレと同定することにした。アギスマレと認むべきものは他にあるのでそれは総目録で記して置いた。

5) フイリゲンジスマレ *V. variegata* Fischer

本種は満洲地方には廣く分布し、根本、²³⁾牧野両氏は樺太に産することを報じ、又牧野博士は八戸市山伏小路、近藤喜衛(ヒロエ)氏の庭前に栽植あるを報告されて居られる。⁴¹⁾岩手縣では昭和21年8月(1946)岩淵初郎氏が盛岡市内梨木町小原松太郎氏宅の庭前に生育するを見出し、次で筆者は盛岡市高松町袴田孝造氏宅その他2, 3カ所に生育しあるを見出した。何れも所有主はユキノシタと混同しその來歴については知ることが出来ない。多分に帰化植物的性状を有し今後分布が廣まる可能性があるので参考までに記載することにした。

6) ニホイタチツボスマレの2変種

ケナシニホイタチツボスマレ *V. obtusa* var. *glabra* Nakai ニホイタチツボスマレの無毛品である。(氣仙郡末崎村: May 10, 1934)

シロバナニホイタチツボスマレ *V. obtusa* var. *Chibai* Makino ニホイタチツボスマレの白花品である。(東磐井郡猿沢村: May 7, 1949)

7) ケナシエゾタチツボスマレ *V. acuminata* var. *glaberrima* Hara エゾノタチツボスマレの無毛品である。(宮古: May 21, 1949)

8) フギレミヤマスマレ *V. Selkirkii* var. *laciniata* Nakai 葉縁に不整欠刻のあるミヤマスマレの1品、下閉伊豊間根村荒川の採品、その地域のもの全部同型であつた。(豊間根: May 20, 1945)

9) オホハイスミレ *V. nipponica* var. *dewa-hokurokuensis* H. Koidzumi アフヒスマレの1変種で匍枝が四方に出る型である。(浅岸: May 11, 1947), 小泉氏原記載と⁴³⁾不一致のところがあるが同変種中の一型と認めた。

- 10) フイリヒナスミレ *V. Takedana* var. *variegata* Nakai ヒナスミレの斑葉品 (薄衣: May 2, 1949)
- 11) チクゲシロスミレ *V. primulifolia* var. *prunellaeflaefolia* Nakai 葉柄及び花梗のみに粗毛を有するシロスミレの1品 (更木: June 10, 1937. 鳥羽氏; 金ヶ崎: June 2, 1949. 猪苗代氏; 盛岡本宮: May 24, 1947)
- 12) フチゲオホバキスミレ (新称)

Viola brevistipulata W. Becker

var. *ciliata* M. Kikuchi, var. nov.

岩手の海岸地方にオホバキスミレの1品があつて早くより注意していたが、しつかりした特徴をつかむことが出来ずに今日に至つている。最近当学々生猪苗代正憲君が詳しい観察をなして、葉縁に細毛があり茎や葉柄、花梗の上部に極めて短かい毛(粉状毛)のあることに於て母種より區別し得ることを明かにせられた。よつて筆者は文献に照し新変種たるべき要徴と認めたるを以て茲に新変種として記載することにした。本変種は廣く北上山地の東部海岸地方の低山地に分布するものの如く、目下判明せる産地は北は陸中久慈地方より南は陸前女川町に至る。陸前女川の産地は東北大学理学部膳葉庫の資料に基く。尙同教室には秋田縣横手町に近い相野々産の標本に同型のものがある由である。(同大学学生千田貞藏氏の報告による) 村井氏の記載したオホバキスミレの産地「重茂」は多分本変種となるものであろう。

Description of the new variety

Viola brevistipulata W. Becker

var. *ciliata* M. Kikuchi, var. nov.

Lamina margine Ciliata; caule petiola et peduncula sursum pulveripubescentibus; ceterum speciei typi similis.

Nom. jap. Huchige-ōbakisumire (フチゲオホバキスミレ)

Hab. Prov. Rikutyu: Miyako et Osawa (M. Kikuchi, May 23, 1949);

Omoto et Tanohata (M. Kikuchi, Oct. 26, 1949)

Prov. Rikuzen: Takata (M. Kikuchi, June 5, 1933); Hirota

(M. Kikuchi, May 6, 1934); Onagawa (A. Kimura, May 25, 1937. Herb.

Sci. Univ. Tohoku)

Prov. Ugo: Ainono (A. Kimura, May 3, 1940. Herb. Sci. Univ. Tohoku)

This variety is characterized by its cilia found along the leaf-margins, and its pulverous pubescence on the upper part of the stem, petiole and peduncle. The plant was often found on the woody area of the coastal region along the Kitakami mauntain range, and very rarely on the mountfoot of the Ōu mountain range in the Japan Sea side.

3. 其他2・3疑問の種類

1) 五葉山産のウスバスマレ

日本本土産のウスバスマレ⁴⁰⁾に関しては牧野博士の報告以來次の如く学名の変更が見られる。

1. *V. blanda* Willd. (牧野, 1905; 植物学雑誌19卷71—72p.)

2. *V. blanda* var. *violascens* Nakai (中井, 1922; 植物学雑誌36卷58p.)

3. *V. blandaeformis* Nakai (Nakai, 1925; Bull. soc. Bot. Fr. Lxxli. p. 192)

即ち最初牧野博士によりて *V. blanda* (アメリカウスバスマレ) と同定された本種は後に中井博士によりて1新種 *V. blandaeformis* と決定されて一應の解決を見たわけである。然るに本学豊学部標本庫には 1908 年8月故山田玄太郎氏によりて採集された五葉山産のウスバスマレの1型があり(多分, 村井, 福田両氏記載の原標本であろう) 村井氏後に再檢の上その有毛性に基きて *V. blanda* 即ちアメリカウスバスマレである⁴⁰⁾ と同定手記されておられる。牧野博士の最初の報告の中に産地として陸前の五葉山(故鳥羽氏の採品) 陸中の早池峯山(故山田氏の採品) をあげておられるから, 鳥羽氏の採品と山田氏採集のものが同物か異物かが極めて重要な問題を含んでいるように見える。山田氏の採品が村井氏の手記の如く果して *V. blanda* であるとせば五葉山は該種の日本本土唯一の確実なる産地と言うわけであるが惜しいことには花も実もない不完全なもので決定には尙時日を要するものと思われる。今後の課題としてこの解決を保留することにしたい。

2) 岩手山, 八幡平産のアラゲキスマレ

岩手山, 八幡平産のオホバキスマレは³⁸⁾ 中井博士の発表以來, ³⁾ 村井氏, ⁶⁾ 福田氏, ¹⁵⁾ 松田氏等

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

によりて屢々アラゲキスマレと同定されている。實際縣内奥羽山系産のオホバキスマレの多数の標本を検して見ると全く無毛のものは殆どなく、多かれ少かれ葉柄、花梗、莖の上部に毛がある。又或る個体は中井博士の原記載の如く莖、葉柄、葉脈及び花梗は皆有毛と見られる。斯る個体のみをアラゲキスマレと見ることにすると、いろいろの程度に有毛な型はどのように処理すればよいかが問題となる。中井博士の原記載を極めて廣い意味に解釈し有毛型を皆アラゲキスマレと見ると、本縣産のものは殆ど全部アラゲキスマレとなつてしまうのである。故に今はこの問題には深く立入らず、先輩諸氏の考えを尊重し本縣には母種オホバキスマレと変種アラゲキスマレ及び筆者によりて検出されたフチゲオホバキスマレの3種が存すると見ることにしたい。

3) アフヒスマレとマルバケスマレ

本縣にマルバケスマレ (*V. collina*) の産することの最初の記録は富樫、雪ノ浦両氏²⁰⁾のものであろう。これはそれまで未知であつたわけではなくアフヒスマレ

(*V. nipponica*) と誤認されていたためである。それだけこの兩種は近似している。

マルバケスマレは一般に乾燥した林地に見られ葉は心状卵形で匍枝を出さないがアフヒスマレの方はフキ、ミツバ等の生える含濕性の所に見られ、葉は腎臓形で多くは根本から匍枝を出すこと等で區別されるが中間型もあつて截然と區別することが往々にして困難である。何れ盛岡附近にはマルバケスマレの正型とも見られる個体が沢山自生しているのので生態觀察を詳しくやつて見て兩種の關係を明かにしたいと思う。

IV 岩手縣産スマレ屬總目錄

以上で本縣産スマレ屬諸種の再検討を終えたので、その結論として茲に總目錄を掲げることにした。学名は本田博士の日本植物名彙(昭和14年)によつたが、其の出版後に新に記載發表された分はそれに従い出典を附記してある。特に採集者を明示する必要があると認めたものは産地名の次に()を入れてそれを示すことにした。

1. *Viola acuminata* LEDEBOUR エゾノタチツボスマレ

猿沢、姫神山、矢作、竹駒、栗橋、宮古、玉山、盛岡、岩手山麓、松川温泉

var. *glaberrima* HARA ケナシエゾタチツボスマレ

宮古(菊地: M_Ay 21, 1949)

2. *V. biflora* LINAEUS キバナノコマノツメ

岩手山、駒ヶ岳、早池峯山、焼石岳、八幡平

3. *V. blandaeformis* NAKAI ウスバスマレ

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

早池峯山, 岩手山, 松川温泉 (阿部彰氏), 駒ヶ岳, 八幡平 (松田氏), 焼石岳 (岩淵氏),
胆沢駒ヶ岳 (岩淵氏), 須川岳 (鈴木氏),

4. *V. brevistipulata* W. BECKER オホバキスマレ

須川岳, 岩手山, 焼石岳, 橋場

var. *pubescens* NAKAI アラゲキスマレ

岩手山 (村井氏), 八幡平 (松田氏, 福田氏), 松川温泉 (阿部彰氏)

var. *ciliata* M. KIKUCHI var. nov. フチゲオホバキスマレ (新称)

久慈, 田野畑, 小本, 宮古, 大沢, 山田, 高田, 廣田, 大槌 (藤卷, 上井両氏)

5. *V. collina* BESSER マルバケスマレ, ニホヒケスマレ, エゾアフヒスマレ

盛岡, 姫神山麓, 南昌山, 鉛温泉, 田野畑, 築川 (富樫, 雪浦両氏), 釜石 (藤卷, 上井
両氏)

6. *V. crassa* MAKINO タカネスマレ

岩手山, 駒ヶ岳, 焼石岳連峯の経塚山, 六沢臺地 (岩淵氏)

7. *V. eizanensis* MAKINO エゾスマレ, エイザンスマレ

一関, 藤沢, 猿沢, 浅岸, 姫神山麓, 小本, 田野畑, 宮古, 鉛温泉, 豊間根, 花輪, 滝沢,
釜石, 大槌, 栗橋, ツナギ

var. *simplicifolia* MAKINO ヒトツバエゾスマレ

浅岸 (菊地: may 18. 1947)

form. *candida* HIYAMA シロバナエゾスマレ

猿沢 (菊地: Apr. 10. 1930)

8. *V. fibrillosa* W. BECKER ミヤマツボスマレ

焼石岳 (岩淵氏, 菊地)

9. *V. flaviflora* NAKAI ダイセンキスマレ

(Jour. Jap. Bot. vol. xv. No. 7. 1937)

岩手山 (中原氏: Jul. 30. 1903; 猪苗代氏: Jun. 25. 1949)

var. *acuminata* NAKAI ミヤマキスマレ

(同上)

岩手山 (中原氏: Jul. 30. 1903), 須川岳 (F. Hyuga氏: June 1932 農学部標本), 岩
手山 (Y. konno氏: June 13. 1931 農学部標本)

10. *V. grypoceras* A. GRAY タチツボスマレ

一関, 石切所, 氷上山, 廣田, 盛岡, 築川, 焼石岳, 釜石, 大槌, 栗橋, 藤沢, 猿沢

var. *pubescens* NAKAI ケタチツボスマレ

姫神山, 猿沢, 一関, 黒沢尻, 浅岸, 更木, 本宮, 末崎, 藤沢, 氣仙, 薄衣, 氷上山, 盛
岡, 橋場, 築川, 焼石岳, 水沢, 南都田, 小山

form. *leucantha* HARA シロバナケタチツボスマレ

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

大槌 (上井氏: May 9. 1948), 笹吹峠 (小水内氏)。

(備考) 上井, 藤巻両君のシロバナチツボスマレは標本を検すると上記のものに当る。
小水内氏のものも採集地が近接しているので上記の種と推定される。

var. *purpurellocalcarata* MAKINO ナトメスマレ
盛岡 (福田氏, 菊地)

11. *V. hirtipes* S. MOORE サクラスマレ

一戸, 盛岡, 高田, 田野畑, 藤沢, 区界, 浅岸, 猿沢, 姫神山麓, 太田, 築川, 栗橋, 小山, 一関

var. *Miyabei* NAKAI コサクラスマレ

遠野 (榎村氏), ツナギ (菊地, 猪苗代), 築川 (富樫, 雪浦…この産地は除外すべきである。)

12. *V. Kusanoana* MAKINO

var. *glabra* NAKAI オホタチツボスマレ

黒沢尻, 浅岸, 一関, 早池峯山麓, 猿沢, 一戸, 更木, 盛岡, 焼石岳, 若柳, ツナギ

var. *pubescens* NAKAI ケオホタチツボスマレ

一関, 姫神山麓, 浅岸, 黒沢尻, 石切所, 本宮, 一戸, 仙人峠, ツナギ

13. *V. Makinoi* BOISSIEU マキノスマレ, ホソバスマレ

藤沢, 一関, 黄海, 小本, 小山 (猪苗代氏), 猿沢, 薄衣, 黒石 (岩淵氏), 田野畑, 花巻温泉, 江刺郡福岡 (農学部標本)

14. *V. mandshurica* W. BECKER

var. *ciliata* NAKAI スマレ, ケスマレ

藤沢, 一関, 盛岡 (岩山), 一戸, 田野畑, 小本, 滝沢, 金ヶ崎, ツナギ, 川井, 盛岡, 築川, 焼石岳, 栗橋, 大槌, 小沢, 小山, 猿沢

var. *glabra* NAKAI ケナシスマレ

藤沢, 一本木, 豊間根, 岩崎, 水沢

var. *albescens* NAKAI コシロバナスマレ

盛岡 (加藤氏: may 24. 1931), 江刺郡福岡 (Y. konno氏: may 10. 1936 農学部標本)

15. *V. meta-japonica* NAKAI コスマレ

藤沢, 黒沢尻, 盛岡, 猿沢, 川井 (岩基植による), 磯鷲 (同上)

(備考) 富樫, 雪ノ浦²⁰⁾両氏の「築川」はアカネスマレであつたので除外する。
鈴木¹⁹⁾氏の「須川岳」も疑しいので除外する。

16. *V. mirabilis* LINNAEUS

var. *subglabra* KOMAROV イブキスマレ

盛岡, 藤沢, 黒石野, 浅岸, 黒沢尻展勝地, 一戸, 滝沢, 松尾, 米内, 猿沢, 鶉飼, ツナギ

17. *V. nipponica* MAXIMOWICZ アフヒスマレ, ヒナブキ

田野畑, 厨川, 姫神山麓, 盛岡, 石切所, 薄衣, 藤沢, 一関, 盛岡 (岩山), 磯鷲, 築川,

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

焼石岳, 栗橋, 釜石, 立花

var. *dewa-hokurokuenis* H. KOIDZUMI オホハイスミレ

浅岸 (菊地: may 11. 1947 及び nov. 22. 1949. 秋型)

18. *V. obtusa* MAKINO ニホイタチツボスミレ

盛岡, 一関, 小山, 高田, 矢作, 藤沢, 黒沢尻, 姫神山麓, 田野畑, 末崎, 南昌山麓, 区界, 水沢

var. *Chibai* MAKINO シロバナノニホイタチツボスミレ

猿沢 (菊地: may 7. 1949)

var. *glabra* NAKAI ケナシニホイタチツボスミレ

末崎 (菊地: may 10. 1934)

19. *V. obtuso-grhyoceras* MAKINO マルバタチツボスミレ

一関 (菊地, 猪苗代: may 1. 1949), 宮古 (菊地: may 22. 1949)

20. *V. Okuboi* MAKINO ケマルバスミレ

一関, 小本, 浅岸, 盛岡, 藤沢, 宮古, 豊間根, 栗橋, ツナギ

21. *V. phalacrocarpa* MAXIMOWIEZ アカネスミレ

(*V. Conilii* Franchet et Savatier...ex Dr. Nakai; Jour. Jap. Bot. Vol. XV. No.7, 1937)

浅岸, 轟民 (東磐井郡の), 宮古, 姫神山麓, 藤沢, 一戸, 一関, 小本, 仙人峠, 網張, 黒石野, 南昌山, 築川, 焼石岳, 鍋倉山, 大槌, 栗橋, 猿沢, 盛岡, ツナギ

22. *V. primulifolia* LINNAEUS ケシロスミレ

水沢 (岩淵氏), 南都田 (同上), 小山 (同上)

var. *glabra* NAKAI シロバナスミレ, エゾシロバナスミレ

藤沢, 一戸, 大槌, 水沢, 一関 (藤沢氏)

var. *prunellaefolia* NAKAI チクゲシロスミレ

盛岡の本宮 (菊地: may 24. 1947), 更木 (鳥羽氏: June 10. 1937), 金ヶ崎 (猪苗代氏: June 2. 1949)

23. *V. pumilio* W. BECKER フモトスミレ

小山 (岩淵氏, 菊地, 猪苗代氏), 南都田 (岩淵氏), 水沢 (岩淵氏)

24. *V. Rossii* HEMSLEY アケボノスミレ

姫神山麓, 一関, 岩山, 田野畑, 小本, 藤沢, 宮古, 浅岸, 高田, 仙人峠, 玉山, 臺, 築川, 鍋倉山

25. *V. rostrata* PURSH ナガハシスミレ, テングスミレ, ナガナスミレ

一関, 薄衣, 猿沢, 蓬萊山, 門馬, 区界, ツナギ

26. *V. Selkirkii* PURSH ミヤマスミレ

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

姫神山, 早池峯山, 氷上山, 室根山, 岩手山, 松川温泉 (阿部彰氏), 八幡平 (松田氏), 門馬, 大川, 御所, 焼石岳 (岩淵氏), 若柳 (岩淵氏), 笛吹峠 (小水内氏), 須川岳 (鈴木氏), 栗橋, 豊間根, 一関 (藤沢氏)

var. *laciniata* NAKAI フギレミヤマスマレ

豊間根 (菊地: may 20, 1945)

var. *variegata* NAKAI フイリミヤマスマレ

姫神山, 八幡平 (松田氏), 葛根田 (岩基植による), 岩手山, 駒ヶ岳

27. *V. semilunaris* W. BECKER アギスマレ

御所, 小岩井, 姫神山麓 (安本氏), 若柳 (岩淵氏), 一関 (藤沢氏)

var. *divaricata* HONDA ハタカリアギスマレ

盛岡 (鳥羽氏)

28. *V. Takedana* MAKINO ヒナスミレ

姫神山, 眞滝, 小山, 盛岡, 氷上山, 藤沢, 猿沢, 浅岸, 一戸, 石切所, 小本, 宮古, 日形, 鶺鴒, 南昌山, 若柳, 永岡, 区界, ツナギ

var. *variegata* NAKAI フイリヒナスミレ

薄衣 (菊地, 阿部, 猪苗代: may 1, 1949)

29. *V. vaginata* MAXIMOWICZ スミレサイシン

猿沢, 沢内, 南昌山, 赤坂田 (佐野氏), 岩手山麓, 早池峯山麓, 松川温泉, 姫神山, 箱ヶ森, 南昌山, 御明神, 志和, 臺, 釜石, 築川, 焼石岳, 栗橋, 若柳, ツナギ

30. *V. variegata* FISCHER フイリゲンジスマレ

盛岡 (栽培又は帰化?)

var. *nipponica* MAKINO ゲンジスマレ

姫神山麓 (加藤氏, 猪苗代氏, 阿部彰氏), 巻堀 (菊地: may 25, 1948), 馬仙狭岩壁 (菊地: Jul. 2, 1947. 及び may 8, 1948), 浅岸 (加藤氏)

31. *V. verecunda* A. GRAY ツボスマレ, コマノツメ, ニヨイスマレ (牧野氏)

更木, 奥中山, 姫神山, 藤沢, 岩手山麓, 一関, 盛岡, 黒沢尻, 門馬, 重茂, 御明神, 駒ヶ岳, 早池峯山麓, 臺, 須川岳, 八幡平, 築川, 焼石岳, ツナギ, 釜石, 栗橋, 水沢, 小山, 猿沢

var. *excisa* MAXIMOWICZ ヒメアギスマレ

蓬萊山, 御所, 姫神山, 黒石野

32. *V. yedoensis* MAKINO ノヂスマレ

藤沢 (菊地: may 10, 1930), 盛岡 (富樫氏: June 1, 1931)

33. *V. yezoensis* MAXIMOWICZ ヒカゲスマレ

(*V. pycnophylla* Franchet et Savatier.....ex Dr. NAKAI; Jour. Jap. Bot. Vol. XV. No.7, 1937)

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

盛岡, 小本, 姫神山, 猿沢, 藤沢, 高田, 宮古, 浅岸, 下有住, 世田米, 日形, 一関, 石切所, 玉山, 早池峯山麓, ツナギ

文 献

1. 和川 忠次郎 (1925). 江刺郡植物分頒 (江刺郡誌附録)
2. 村井 三郎 (1925). 岩手植物志 37—39 P.
3. " (1935). 岩手基準帯植物目録 (青森営林局刊)
4. 菊地 政雄 (1931). 東山産スマレ科植物, 東山の植物 (蔭) 1巻 1號
5. 瀬川 宗吉 (1932). 植物の種類より見たる八幡平附近, 岩手植物研究 1巻 2號 17—26 P.
6. 福田 裕 (1932). 岩手植物新報知 (2), こけもも (蔭) 9號 24—26 P.
7. " (1935). 岩手縣の高山植物分布一覽, 岩手の山岳 (別刷)
8. 岩淵 初郎 (1933). 岩手縣産植物の新報告 (其の二), 岩手植物研究 2巻1號 51—53 P.
9. " (1934). 焼石岳と其の植物, 岩手縣立水沢商業学校々友会誌: 校友 5號 (別刷)
10. " (1935). 焼石岳の植物, 岩手教育13巻 9號 46—54 P.
11. " (1937). 三陸植物分布資料 (其の二), 岩手植物研究 2巻2號 116 P.
12. " (1937). 岩手縣胆沢郡植物目録 (其の六), 東北博物界 (蔭) 6號 154—155 P.
13. " (1943). 陸中焼石岳植物目録, 植物趣味 10巻 2—3號 (別刷)
14. 加藤 運 彌 (1934). 岩手縣新分布植物, 岩手植物研究 2巻 1號 51—53 P.
15. 松田 孫 治 (1934). 八幡平植物目録, 東北博物界 (蔭) 5巻 129—136 P.
16. 柏木 吾 市 (1935). 三陸植物志 (青森営林局刊) 25—265 P.
17. 笹村 祥 二 (1937). 上閉伊, 氣仙兩郡新分布植物 岩手植物研究 2巻 3號 179—183 P.
18. 小水内 長太郎 (1939). 岩手, 栗橋地方植物志 (蔭) 27—28 P.
19. 鈴木 長 治 (1934). 陸中栗駒山 (須川岳) 植物目録, 全國中博報 2巻 1號 (別刷)
20. 富樫 雪ノ浦 (1937). 築川放牧地の植物学的調査 (岩手縣刊) 35—36 P.
21. 藤 沢 統 悦 (1948). 岩手縣南地方のスマレ属 (未発表)
22. " (1949). 一関蘭梅山スマレ案内記, 東北生物研究 1巻 1號 81—82 P.
23. 牧野 根 本 (1931). 訂正増補 日本植物総覽 755—772 P.
24. 根 本 莞 爾 (1936). 日本植物総覽補遺 489—499 P.
25. 滿 鐵 調 査 課 (1930). コマロケ原著滿洲植物誌 第5巻 190—226 P.
26. 結 城 嘉 美 (1936). 山形縣産スマレの記 1—3, フロラ山形 (蔭) 1號—3號
27. 竹 内 亮 (1932—1938). 九州のスマレ 1—5, 福岡博物学雑誌 1巻1號—1巻5號 (別刷)
28. 古 家 儀 八郎 (1938). 秋田縣産スマレ科植物誌, 林曹会報 263號 28—40 P.
29. 寺 崎 留 吉 (1933). 日本植物図譜 159—178 P.
30. " (1938). 続日本植物図譜 2848—2773 P.
31. 松 村 任 三 (1912). 帝國植物名鑑 下巻 371—382 P.
32. 上 井, 藤 卷 (1949). 植物採集目録 (釜石一高校友会生物班刊) (蔭) 28—30 P.
33. 本 田 正 次 (1932). 日本植物新報知 (第79) (ラテン文, 和文摘要), 植物学雑誌 46巻 551號 677 P. 及び724 P.
34. " (1939). 日本植物名彙 223—230 P.
35. 中 井 猛之進 (1924). スマレ雜記 (1—2) 植物学雑誌 36巻 423號 52—61 P 及び424號 84—93 P.
36. " (1933). 日鮮植物管見 (第43), (ラテン文, 和文解説), 植物学雑誌 47巻

岩手縣のスマレ (菊地政雄)

- 556號 260 P. 及び317 P.
37. 中井 猛之進 (1939). 東亞植物拾遺 (第8), (ラテン文, 和文解説), 植物研究雜誌 15卷 7號 401—403 P. 及び417—418 P.
38. " (1928). 新に我が國籍に入るスマレ類 (ラテン文, 和文解説), 植物学雜誌 42卷 504號 556—557 P. 及び591 P.
39. 牧野 富太郎 (1902). 日本植物考察(承前), (英文), 植物学雜誌 16卷 159 P.
40. " (1905). " 19卷 71—72 P.
41. " (1929). 植物研究雜誌 6卷 6號 (口絵)
42. " (1940). 牧野日本植物図鑑, 308—321 P.
43. 小泉 秀雄 (1936). 植物採集記, 共立女子薬専校校友会雜誌「宇陀野」5號抜刷 16 P.

総目録 追 補

34. *Viola kamtchadalorum* Becker et Hulten var. *pubescens* Miyabe et Tatewaki

ケオホバタチツボスマレ 陸中藪川 (外山)

2) 16)

筆者はさきに本論文に於て村井氏, 柏木氏の報告せられた外山産ケオホバタチツボスマレに關し, その標本の不完全なるの故を以て暫く本縣目録より除外する旨述べて置いた。然るに著者は本年5月25日その原産地なる藪川村外山地方に採集を試み, 丹藤川, 外山川の始発地点となつてゐる濕地帯に於て, 故沢田兼吉氏が1906年6月24日採集の原標本に紛う方なき生品に接し親しくその生態と形態を觀察した。而して本種は北海道大学の宮部, 笹脇両博士によりて記載命名せられたるケオホバタチツボスマレと認定するを得た。由來北方系のケオホバタチツボスマレの日本本土に於ける分布に關しては, 前記村井, 柏木両氏の報告の外, 故飯柴永吉氏により会津の尾瀬地方が報じられたが, (飯柴永吉刊フロラNo.17, 1930.) 何れも學者の承認するところとはならず, 本州には分布せざることが定説となつてゐる。今回筆者は陸中藪川村外山濕地帯を以て日本本土に於ける唯一確實なる産地であることを再確認し追補として報告することにする。又斯学の先達にして本種の最初の発見採集者たる沢田兼吉氏の靈前にこの小著を捧げて45年來の疑惑を解決したるを報じ, 故人の冥福を祈りたい。 (1950, 6, 30, 記す)